

赤城山の“すその”で暮らそう！ 前橋移住を考えるフリーペーパー

susono

vol.5

[2019.2]

私らしく過ごせる、
前橋時間。



前橋市移住コンシェルジュは
あなたの夢を応援します。

移住コンシェルジュ
鈴木正知



https://www.facebook.com/maebashiiju/

Let's Learn 上州弁

パリもいいけど
はあ前橋に
けーるんべー

近藤 嘉男
こんどう よしお

1915年前橋市出身の画家。終戦後、自邸（現・広瀬川美術館）に子供向けの絵画教室「ラ・ボンヌ」を開くなど地域文化に貢献。1964年に一般人の海外渡航が自由化されると、いち早く諸外国を巡り作品を残した。

解説

「ケール」といえば青汁に使われる栄養価の高い野菜ですが、上州弁で「けーる」は「帰る」の意。「はあ」は素っ気ない返事ではなく「もう」という意味なので注意が必要。

開催中「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路：アーツ前橋収蔵作品から」アーツ前橋ギャラリー1（2019年2月2日～3月24日／入場無料）



歩いて帰ろう

大きなビルに囲まれた昔ながらの青果店は そこだけ空がよく見える
晴れた冬の日の屋下がり もう長い付き合いであろう並木の影が
モルタルの壁に優しく寄りかかっていた



Instagram
@susono_maebashi

群馬の女性の働き者ぶりを表した「かかあ天下と空っ風」という言葉がある。「かかあ天下」と聞くと、男性を尻に敷く強い女性のようないメージがあるけれど、本来は働く女性を称える言葉なのだという。前橋では、まちなかや公園などで年間を通して様々なイベントが行われているが、オーガニック・フードや手作りのアクセサリなどが並ぶイベントで活躍する出店者には女性が多い。吉崎さんのように県外出身でも、イベントで他の出店者やお客様とつながり、地域に溶け込んでいく人も多くはないだろうか。金井さんが働く和菓子店「なかご」でも、女性を中心となって製造・販売を行っていて、お店のイメージも明るく華やか。人気のどら焼きを求めて幅広い層のお客様が立ち寄り、商店街に新しい風が吹き込んだように見える。

取材メモ

前橋にある企業の仕事や様々な取り組みを紹介します。
あなたに合った“前橋での働き方”が見えてくるかも！？

ハロー！WORK まえばし

地域の空気を動かす群馬発祥の工務店

エアムーブ住宅株式会社

自然エネルギーを有効活用し快適に暮らせるよう考案したパッシブ住宅工法「エアムーブ工法」が代名詞の工務店。この工法は、住宅工法として初のグッドデザイン賞を2012年に受賞。「ベスト100」「ものづくりデザイン賞」にも選出された。こうした技術力に加えて、「家づくりを通して人を幸せにしたい」と社長の深川さん。本社近くでは、まちに開いた拠点「ゲストハウス」をオープンし、地域住民を巻き込んだ様々な企画を実施する。また、前橋市中央児童遊園るなばあくに新設された中庭「New Yard」には、絵本と本棚のスペース「えほんのすみか」を寄贈。歴史ある遊具に並んで人気となっている。今後も工務店の強みを生かしながら新たなアクションを起こし、地域の空気を動かしていく。



協力 エアムーブ住宅株式会社

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1丁目12-6

移住コンシェルジュ便り

☑️

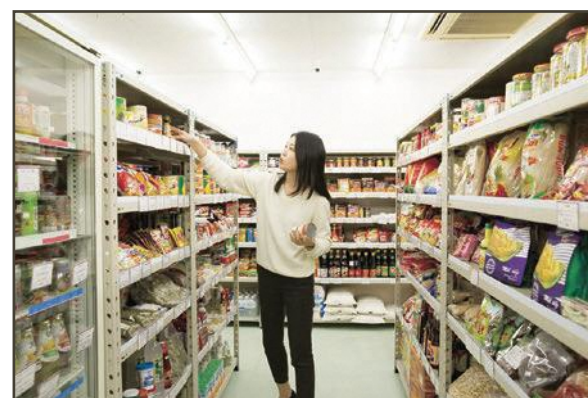
「裾野は長し赤城山」。上毛からたのひと札にもあるように、とっても広いす野を持つ赤城山。その山頂から南面を一気に下ると、関東平野の始まりの地、前橋の市街地が現れる。この山と市街地との距離感が前橋の特徴なんです。例えば今日（2月10日）のJR前橋駅周辺の気温は6度。それが百名山の一つ赤城山黒檜山では氷点下12度！当然、山頂の大沼は全面結氷。水厚30センチです。そんな中でも、ワカサギの穴釣りで大沼は大賑わい。都心から10キロ

圏内、市中心部から車で30分も走ればこんな体験ができるのです。なんて素敵なことでしょう。赤城のワカサギ釣りは他と比べると難しい？でもご安心を。湖畔の宿主たちは魚群探知機片手にしつかりサポーター。釣らせることに使命感を持っていらっしゃる。デカサギ！って地元で呼ばれるくらいサイズも大きくいし。それと、日本一小さいスキ場もこの山に。家族にピッタリ！うちの子どもたちも小さい頃にたっぷり遊ばせてもらいました。パウダースノーで滑

り心地がいい。デカいリフトなんてものはないけど、スノーエスカレーターがあるから、大汗かいて子どもを背負って上がる心配はありません。『都心の便利な生活から離れてまで郊外に移住し、何をしたいの？』。移住相談の場面で僕が必ず聞くことです。色々な考えを聞くけど、雑誌やテレビで見ただとか「なんとなく都心じゃない暮らしがしたくて」等等、まず足を運んで、実際に見て感じて、経験してほしい。頭の中で答えを見つける前にね。

鈴木正知（すずき まさと）

東京都町田市出身。上野動物園や葛西臨海水族園の飼育員、長野県戸隠イースタンキャンプ場管理人 インタープリター担当などを経て、2006年前橋市へ移住。市内23の行政区を集めて地域活動の情報共有をする「前橋地域づくり協議会」や「前橋の地域若者会議」を立ち上げて以来、前橋市の地域づくりに携わる。2015年より、前橋市の移住コンシェルジュに就任。



ユニーク
U-29ピープル

広告代理店勤務

武藤 沙紀さん（29）

学生時代に海外へ交換留学したとき、物足りなさや、もっと頑張れたのでは？という後悔のような気持ちを抱いていました。この思いを原動力にいつか必ず海外で存在感を示すと決めていた私は、新卒で入社した金融機関を1年で辞め、海外行きを決心。開発経済学を教わっていた大学の教授からタイを紹介され試みに訪ねてみると、想像を遥かに超えた都会で。「これなら暮らせる！」と思い、即タイへ渡り現地で就活。バンコクにある日系の自動車向け材料メーカーの営業として4年間働きました。土日返上でタイ語を学んだのがいい思い出。2年前に地元へ戻ったときは、海外からの留学生や移住者が増えていて驚きました。今後は日本人と彼らをつなぐアクションに取り組みたいです。

めぶく 〇 前橋市

SUSONO vol.5

発行日：平成31年2月28日

発行：前橋市役所 政策部 未来の芽創造課

〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12-1 TEL 027-898-6513 FAX 027-224-3003

吉崎さん・金井さんのおすすめ

café le cocon (カフェ ル ココン)
ガレットとクレープのお店

前橋市千代田町 3-2-12



広瀬川に架かる厩橋の西側。赤い看板が目印のガレット屋さん。店内は、シンプルなつくりの中に、いきいきとしたグリーンや赤いチェックのテーブルクロスが映える、上品で可愛らしい雰囲気になっている。ガレットという食べ物のもつ文化やその世界観に引き込まれた店主が、ガレット専門店やフランスでの研修などを経てオープンした。前橋出身の店主と金井さんは、カフェとアパレルを取り扱う都内のお店時代に同じ職場だったというのも本当に不思議な縁。

「とにかくガレットが美味しいです。そば粉を使っているからか、そば茶がよく合いますね。ふらっと立ち寄ってコーヒーを飲むにもぴったり。前職のつてを活かしてこだわりの野菜を仕入れているのも素敵。なにより、店主のおっとりとしたキャラクターが魅力です（笑）」と金井さんが楽しそうに語ってくれた。

まちのシンボル 太陽の鐘



まちなかを流れる広瀬川のほとり。諏訪橋近くの小高い森の中にひっそりと佇む“太陽の鐘”。大阪の“太陽の塔”などで有名な芸術家・岡本太郎さんの作品です。前橋ビジョン「めぶく。」を形にして前橋の新しいシンボルにしようと、所有していた日本通運から寄附を受けた前橋市とまちづくりに取組む太陽の会をはじめ、縁ある方々の協力によって設置されました。この場所は、世界的な建築家・藤本壮介さんがデザインしたことで国内外から注目を集めています。普段はつけませんが、イベントなどでは実際につくることができます。つき棒の長さが 24 メートルもあるので、みんなで協力してつかなければ鳴りません。みんなで同じ方に向けて取組むことで「めぶく。」何かが生まれるかもしれない。そんなことを太陽の鐘を通じて感じてもらえたら嬉しいです。



イベントで手作りのお菓子を販売する吉崎さん。様々なイベントへの出店を通して人のつながりが広がっていく。



中央通り商店街に昨年オープンした和菓子店「なか又」で働く金子さん。菓子作りの経歴を生かして活躍している。



前橋で働くようになりました。いま動いている「なか又」は、オープンしてから半年ほど。仕込みや新商品開発など積極的に店づくりにも関わらせてもらい、楽しく働いています。売り上げや来客数に波があるのは大変なことですが、なによりお客さんが来てくれるということがとにかく嬉しくて。中には、東京から『インスタ見て来ました』『なんていう方も、本当にありがたいございます！』

前橋での生活が
日々楽しくなっていく

ふと吉崎さんが、沸かしたお湯を茶葉に注ぎ始めた。いつも前橋の中心街で購入しているという玄米茶の芳ばしい香りがリビングルームに広がっていく。吉崎「ちよつとずつ人とのつながりが増えてきましたね。料理教室、オーダーをいただいて作るケーキ、手作りのお菓子で参加するイベント出店が日頃のお仕事なのですが、こうした機会はみんな、つながりのおかげ。例えば、この茶葉を購入しているお茶屋さんの駒井園さんでは、このお店の茶葉を使ったお菓子や、新茶の時期にそのお茶に合うお菓子を作らせてもらっています。ブランド力も経歴もない

私にお声がけくださり、本当にありがたいです。

また、人とのつながりは仕事だけではなく普段の生活が楽しくなることにも関係している気がします。駒井園さんに紹介されて、その上の階のウイスキーがたくさん置いてあるショットバーに行ってみたら、そこが本当にいいお店だったんですよ！ イベントで一緒になったお店の方と仲良くなることもありますね。そして休日にそのお店に出掛けて、また仲良くなつて」

金井「素敵なお店が増えているのも嬉しいですよ。なか又の隣にはハンドクラフトパスタ店のGRASSAがあつて、反対側には新しいとんかつ店がオープン予定です。それに、タイ料理のセマクテやガレット屋さんのcàfé le coconなど、つい立ち寄りたくなってしまうようなお店ばかり。欲を言えば、みんなで気軽に集まれるような場所がもっとあればいいのになあと思っています。例えば立ち飲み屋さんとか。それと、ヘルシー系のお店もほしいな。毎日ヨガをして、チアシードとかアサイーを食べたいですね。意識高い系と思われるのも全く構いません（笑）」

吉崎「サタボウルのお店、近くにあって絶対使うなあ！」

吉崎「その日がやってくるのを楽しみにしています！」

金井「早く新しいお家を決めるから、一緒に飲みに行こうね。歩こう！」

吉崎「その日がやってくるのを楽しみにしています！」

「おいしいあさね房」
吉崎亜紗子さん「なか又」勤務
金井沙織さん

前橋でつながった、お菓子なご縁

若くてエネルギーのある女性が
集まってきた

吉崎「移住を決める前、東京の時はずっとお店勤めをしていました。パティシエとして修行というよりは、カフェでランチやデザートを作るような感じで。前橋に来る直前は、赤坂の日本酒を扱うお店で料理をしながら、お酒に合うスイーツを作ったりしていました。移住のタイミングでお店を辞めることになったので、『それならフリーランスになってみよう』と勢いだけでフリーのお菓子作家を始めたんです。パートナリーの暮らすまちに移住するという状況でしたが、特に人脈も何もなく、今思うとなんて無謀なことを

したんだろうって（笑）。ただ、もともと前橋には、おばあちゃんの家があつたんです。小さい頃から何度も訪れていたで、私にとつては故郷のような場所でもありました。何の抵抗もなく拠点に移すことができたのは、おばあちゃんのおかげでもあったんでしょうね」

同じ大学から同じまち、お菓子づくりの道へ

吉崎「移住を決める前、東京の時はずっとお店勤めをしていました。パティシエとして修行というよりは、カフェでランチやデザートを作るような感じで。前橋に来る直前は、赤坂の日本酒を扱うお店で料理をしながら、お酒に合うスイーツを作ったりしていました。移住のタイミングでお店を辞めることになったので、『それならフリーランスになってみよう』と勢いだけでフリーのお菓子作家を始めたんです。パートナリーの暮らすまちに移住するという状況でしたが、特に人脈も何もなく、今思うとなんて無謀なことを

金井「『早く新しいお家を決めるから、一緒に飲みに行こうね。歩こう！』」

